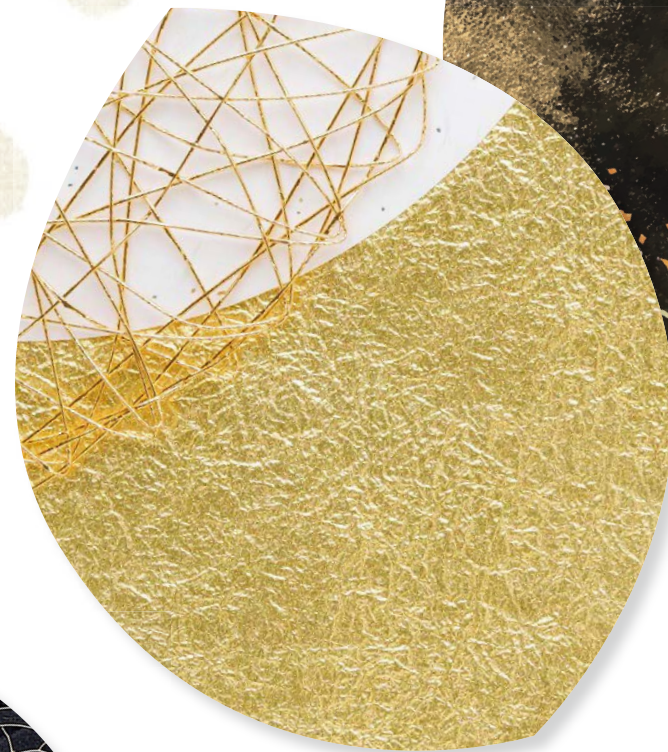


全佛婦

No. 142

2026年新年号

1月1日発行



全佛婦142号

令和8年1月1日 発行日

編集委員 編集人

本多端子 発行人

発行所

公益社団法人 全日本仏教婦人連盟

〒151-0051

東京都渋谷区千駄ヶ谷

4-5-10-205

03-5772-0677 電 話

<http://jbwf.jp> URL

info@jbwf.jp MAIL

公益社団法人
全日本仏教婦人連盟

本多良之師 表紙画

年頭によせて

新年おめでとうございます



東伏見 具子

昨年は戦後八十年という年に当たり、世界平和を願うイベントや、戦争で亡くなられた方々の慰霊碑への追善法要が世界中で行われました。平和を願う気持ちは、節目だからという事ではなく、常に平和な世界を目指していかなければなりません。未来の子供達の為にも。

昨年の全日仏婦の大会でも述べましたが、今年こそ踏み出そうではありませんか。具体的に私たちができる事を話し合い、実践していきたいとずっと思ってきました。ぜひ皆様のご協力をお願い致します。

京都新聞の日曜版に、「頭の体操」コーナーがあり、私は数独、主人は間違い探しをしています。「あと一個が見つからない」と、時々私にまわってきます。そして毎回「もう一週間が経ったのか」と、同じ会話が繰り返されるのです。かくして一年があっという間に過ぎます。一日二十四時間、一年三百六十五日はみな平等に与えられたものです。それをいかに使うかはそれぞれですが、朝日を浴びて「今日も一日よろしく」と笑顔で言い、「今日も一日ありがとう」と感謝の気持ちを表すことは

大切ではないでしょうか。

今年は「午年」しかも「丙午」です。物事を大きく広げていく強いエネルギーを持つとされているそうです。パワー全開の良い年になりそうな気がしますよね。

パワーの話ですが、当院では毎月満月（新月のときも）護摩供のお勤めをしています。

満月も新月も心の状態にもものすごく影響しています。月は地球の周りを一日に一回りしています。が、実は地球の自転より月の公転の方が少し遅いため、月の引力によって地球の自転を止める働きをしています。実際には、地球の自転に変わりありませんが、それは

月が地球から離れることで調節されているからです。このように月の引力は本当にすごいのですが、我々は月の引力を全く自覚していません。満月と新月の時に引力が一番高まり、人間の心の本質である「気」と「心」にもものすごいパワーがかかります。その時に自身の精神を集中して、私としてはお不動様のパワーをいただき諸願成就をしっかりと祈ります。

宇宙から見れば人間はほんの米粒程の存在かもしれませんが、その宇宙の中で生かされている私達。丙午のパワーと皆様それぞれのご本尊のパワーをいただいて、令和八年が実りある年となります様祈念致します。

合掌

天地宇宙の真理に気づく―「仏戒」について 仏心に目覚める―「授戒」について

今ここを

おいて

どこへ行くこうと

するのか

愛知専門尼僧堂・特別尼僧堂堂長

青山俊董 老師



青山俊董◎あおやましゅんどう

昭和8年、愛知県一宮市に生まれる。5歳の頃、長野県塩尻市の曹洞宗無量寺に入門。15歳で得度し、愛知専門尼僧堂に入り修行。その後、駒澤大学仏教学部、同大学院、曹洞宗教化研修所を経て、39年より愛知専門尼僧堂に勤務。51年、堂長に。59年より特別尼僧堂堂長および正法寺住職を兼ねる。現在、無量寺東堂も兼務。昭和54、62年、東西靈性交流の日本代表として訪欧、修道院生活を体験。昭和46、57年、平成23年インドを訪問。仏跡巡拝、並びにマザー・テレサの救済活動を体験。昭和59年、平成9、17年に訪米。アメリカ各地を巡回布教する。参禅指導、講演、執筆に活躍するほか、茶道、華道の教授としても禅の普及に努めている。

平成16年、女性では二人目の仏教伝道功労賞を受賞。21年、曹洞宗の僧階「大教師」に尼僧として初めて就任。明光寺（博多）僧堂師家。

ようやくにして本論に入らせていただきます。

「お授戒」と申しますが、この「じゆかい」には「授戒」と「受戒」と二通りありますが、授ける方からいったら、戒を「さずける」の「授戒」ですし、受ける方からいったら、戒をお受けする「受戒」となりましよう。

しかしながら、いずれにしても、何かをもらったり、あげたりする話ではない。ということ、まずは心に止めておきましょう。

達磨大師は、お釈迦さまから法を相続して二十八代目。インドから中国へ禅をお伝えになりました。

この達磨大師の示された、『一心戒文』の中に、
 受とは伝なり
 伝とは覚なり
 即ち仏心を覚するを真の受戒となす
 という言葉があります。「受ける」ということは「伝える」ということ。「伝える」ということは「気づく」ということ。「仏心を覚するを真の受戒となす」と。

死のうと思う。けれど、ひとつだけ気になることがある。『南無阿弥陀仏』を唱えて死んだら、救ってもらえるか

という電話だった。東井先生は、「待つてください。あなたの気まぐれな『南無阿弥陀仏』ぐらいで救われるもんですか。そんなことよりも、あなたはまわり中が見捨てた、裏切ったと言うけれど、あなた自身が自分の命を裏切り、見捨てて、死のうとしているじゃないか。そんなときも、がんばって見捨てずに、生きてくれよ、乗り越えてくれよと、呼びかけ通しに呼びかけ、働きかけ通しに働きかけていくくださる、そのお声が聞こえないか」とおっしゃった。

「そんな声、どこにも聞こえない」「死のうとしているそのときも、あなたの呼吸が入りしているでしょう。あなたの心臓が動いているでしょう。死なせてなるものか、乗り越えてくれよ、とあなたの呼吸を入りさせ、あなたの心臓を動かしてください。そのはたらきを仏というんじや。その他の、どこに仏がいると思うか」とおっしゃった。

「勘違いをしていたようだ」と言って電話の主が電話を切った、というお話を思い出します。

わたしがこうしてしゃべっている間も、なんとも思わなくとも心臓が動いている、呼吸が入りしている。

「仏さまの身心を頂戴していたんだ」ということに気づくことであつて、ないものを頂戴する、「ものをやりとりするとは違うんだぞ」とおっしゃる。

「仏心を覚するを真の受戒となす」。仏さまになるのではなくて、仏さまであつたことに気づく、そういうふうに頂戴していただくといひですね。

わたくしが生涯の師として仰いでおりました沢木興道老師の言葉に、「凡夫がぼつぼつ修行して仏になるんじゃない。はじめから仏さんなんだ。ただそのことに気づかず迷つてい

るのを凡夫と呼ぶ」というのがあります。よく、「仏になる修行」といいますが、そうではない。はじめから仏さんなんだ。ただ、そのことに気づかず迷つてい

るのを凡夫と呼ぶ」と。

やはりわたくしがお慕い申しあげておりました、教育者で兵庫の八鹿小学校の校長を最後に定年退職された東井義雄という先生のお話を思い出します。

今朝、頂戴したものをきちんと消化している。みなさんにお聞きいただいている間、一分間にいくつ心臓を打たなきゃならない、と思わなくても、ちゃんと動いてくれています。生きるための努力の何一つもしていないで眠りこけている間も、生かしながら生きていく。その働きをいただいている自分の命の姿に気づかせていただくこと、これが「気づき」ということなのです。

何に気づくか。はじめから授かっている仏の御命、仏の御働きをいただいている二十四時間、その命の尊さに気づく。それがお授戒の「授」という意味なのです。

「受とは伝なり、伝とは覚なり」と。そういう命の本来の姿、仏の命、仏のお働きをはじめから頂戴している、そのことに気づかせていただく、それが受戒の「受」という意味なんです。仏になるのではなく、すでに仏である自分に気づかせていただくということ、を、まず受け止めていただきたいと思います。

第一講でお話ししたように、キリスト教の場合は、「創造の神」、唯一神の創造の神をたて、創られたる万

東井先生は、愛の教育に生きた先生です。教育のことを農家のお百姓さんにたとえて、

下農は草を作り
 中農は作物を作り
 上農は土を作る

と。教育の畑の土づくりは家庭づくり、親づくりなんだと。作物である子どもを何とかしようと思つても、苗床である、土である家庭が、親がダメならダメなんだとおっしゃる。この頃、子どものいろいろな問題があります。大人に責任があると思わなければならぬと思います。

校長をお辞めになってから、教育の畑の苗床づくり、土づくりのために、全国を講演に歩いておられました東井先生、夜中に電話が入った。こんな夜中に誰が電話をくれたかと思つて、受話器を取つてみたら、男

の方のせつば詰まつた声で、「世の中の人みんな、わたしを見捨てた。裏切つた。生きてゆく勇氣がなくなつたから、今から首をつつて

物との二元です。

仏教の方は一つです。はじめから仏の御命をいただき、その御命をそれぞれ姿として命をいただいている。はじめから授かっている仏の命に気づくというので、「自覚の宗教」と呼ばれるゆえんです。それに対してキリスト教の場合は、創り主と創られたる者との「契約の宗教」と呼ばれています。

ちなみに、同じキリスト教でも、カトリックでは「神父」ですが、プロテスタントでは「牧師」といいます。この牧師というのは、創られたる仔羊が、創り主の神に背かないように神に代わつて牧することから、「牧師」と呼ぶのだそうです。

仏教では修行の十の段階を牛飼いにたとえた、『十牛図』という教えがあります。その中で、第五番目は牛を牧する「牧牛」といいます。『十牛図』における牛は、わがままで、あしたい、こうしたいという自我のわたし。それが、仏の御命によつて目覚めたもう一人のわたしによつて牧されていく、このように受け止めるとうろしいかと思ひます。

「授戒」（「受戒」とは、ものやりとりではなくて、はじめからいただいている仏の御命、お働きに気づかせていただく、目覚めさせていただくこと、とまずはそのように受け止めていただきたいと思います。



「ほとけさまのサイン」

編集・発行 天台宗出版室

浦井正明師：「阿弥陀さまはなぜ九ツもの印相を示しておられるのか。お不動さまはどうして怖いお顔をして、剣などをお持ちなのか。本書はこうした疑問にお答えするために書いたものである。（中略）仏さまは本来拝まれるために造られるのである。いいかえれば、私たちが仏さまに何を願い、仏さまはそれにどう応えてくださるのかということなのである。」

著者略歴

【浦井正明（うらいしょうみょう）】

1937年（昭和12年）－2025年（令和7年）。天台宗僧侶。東叡山輪王寺門跡門主・寛永寺前貫首。慶應義塾大学文学部史学科卒業。東叡山現龍院前住職。寛永寺執事長、台東区教育委員会委員長、台東区文化財保護審議会委員等を歴任。『もうひとつの徳川物語 将軍家霊廟の謎』等著書多数。

世相を反映したお地蔵さまも祀られています。

変わったお姿

また勝軍（しょうぐん）地蔵や裸形（らぎよう）の地蔵、白雲上の蓮台に乗られた地蔵など、珍しいお姿のお地蔵さまもいらつしやいます。

勝軍地蔵とは、中世以降、武士が戦勝や武運を祈願したお地蔵さまで、甲冑（かっちゅう）をつけておられます。また、裸形の地蔵は、自分の信仰する仏さまが、夏も冬も同じ衣を着ておられるのはお気の毒だという考えから、子供の着物を着せかえるように、お地蔵さまの衣を季節にあわせてお替えるのです。こうした例は辨財天さまにもありますし、奈良の新薬師寺のように、衣自体まではずせるように木彫で造った例もあります。蓮台の下に白雲を置いたお地蔵さまは、この雲に



大仏師 山高龍雲作

ほとけ
さまの
サイン
Sign

地獄で仏

お地蔵さまはインドではあまり信仰されなかったようですが、中国や朝鮮では広く信仰され、やがて、奈良時代には日本へも伝えられました。

ただ、わが国でお地蔵さまが広く信仰されるようになったのは平安時代の中頃からのことです。特に、天台宗の恵心僧都（えしんそうず）が説かれた地獄の思想が広まってきた平安後期には、その地獄に在って、救いの手を差し延べて下さる菩薩さまとして、人々の信仰をあつめるようになりました。正に「地獄で仏」というわけです。

しかも、お地蔵さまは、単に救いの手を差し延べて下さるだけではなく、「代受苦（だいじゅく）」といって、私たちの地球での苦しみを私たちに代わって受けて下さるというのですから、ますます有難い仏さまとして信仰されるようになりました。

乗って早く私たちを救いに来て下さいという願の表現です。このことは、来迎（らいごう）の阿弥陀さまの項でご説明した通りです。

お地蔵さまと閻魔さま

ところで、お地蔵さまは次第に塞ノ神（さいのかみ）（道祖神）と一体化していきます。路傍や分かれ道などにお祀りされたお地蔵さまはそうした役割をしておられるのです。それはお地蔵さまへの私たちの親しみの気持ちの表われといっていいでしょう。

更に、お地蔵さまへの信仰は、中世になって閻魔さまをはじめとする十王信仰が伝えられると、一層深まってきました。

というのは、死者を裁く十王を代表する閻魔大王は、実は地蔵菩薩の別のお姿だと考えられたからです。

ニックネーム

やがて、お地蔵さまについて、さまざまな靈驗記や奇瑞（きざい）、伝説などが語られるようになります。例えば、有名な『今昔物語』の中にも、お地蔵さまの靈驗譚（れいげんたん）が載っていますし、これも有名な矢田寺の『矢田地蔵縁起絵巻』などにも、お地蔵さまの御利益が説かれています。

こうして、お地蔵さまは、観音さまと共に、時代を超えて、もともと広く信仰される仏さまとなったのです。

そのことをよく示しているのは、他の仏さまと違って、お地蔵さまにはとても親しみやすい特別なお名前がつけられていることです。

例えば、縛られ地蔵、とげ抜き地蔵、子育て地蔵、身代（みがわり）地蔵など、いわゆるニックネームをもつ、皆さまお馴染みのお地蔵さまが沢山いらつしやるのです。特に最近では、水子地蔵、平和地蔵、交通安全地蔵など、

初七日から三十三回忌までの各忌日や回忌を担当する仏を十三仏といいますが、その内五七日は閻魔さまの担当で、本地仏（背景におられる仏さま）は地蔵菩薩さまというわけです。

延命地蔵さま

また、お地蔵さまは子供に対して特別に目を掛けて下さる仏さまだと考えられました。よく石のお地蔵さまがよだれ掛けをしておられたり、お菓子やお玩具（もちや）が供えられているのは、今は亡きわが子への親の心遣いなのです。

ところで、鎌倉時代になると、延命地蔵さまがお祀りされるようになります。最初は左手に錫杖を持ち、右手を頬に当て、右膝を立て、左足を踏み下すお姿でした。

お釈迦さまと弥勒さまの間を繋ぐお地蔵さまのお姿です。その後、半跏で右手に錫杖、左手に宝珠を持つお姿が一般的となり現在はこのお姿を延命地蔵さまと呼びしています。



第72回

公益
社団法人

全日本仏教婦人連盟大会



10月21日（火）、第72回全日本仏教婦人連盟大会が東京プリンスホテル「サンフラワーホール」にてご来賓、会員あわせて80名の参加をいただき開催されました。

第一部では、御導師笹川悦導師、式衆全日本尼僧法団により法要が厳粛にとり行われ、引き続き笹川悦導師からご挨拶を賜りました。東伏見具子会長の挨拶、ご来賓代表の（公財）全日本仏教会和田学英事務総長のご祝辞に続き、（公財）国際仏教興隆協会中村康雅理事長に当連盟より寄付350万円が目録が会長より贈呈されました。

第二部は本多端子理事長の挨拶で始まり、浄土真宗東本願寺派法主大谷光見台下の乾杯のご発声をいただき懇談会が開始されました。食事や歓談の合間にご来賓の紹介と共に東大寺長老・印度山日本寺竺主北河原公敬現下、大本山總持寺菅首石附周行現下に一言ご挨拶をいただき連盟に取りましての励



ましの言葉となりました。今回の清興、フルート奏者の松井くるみ氏、バイオリン奏者の手島玲氏の素晴らしい演奏を楽しみました。尚、来賓、会員皆様と一緒に仏婦の歌をお二方の演奏で合唱し恒例の心の募金の呼びかけには、皆様から十三万一千円の心温まるご協力がありましたので福祉基金としてお預かりいたしました。最後に加用稔子副会長が謝辞を述べ和やかな雰囲気の中に無事に閉会い

挨拶

全日本仏教尼僧法団

理事長 笹川悦導

だいぶ秋らしくなってきました。本日は全日本仏教婦人連盟第72回大会誠にありがとうございます。

本当に心一つに致しまして仏教徒が一丸となって力を合わせたならばきっと素晴らしい世の中になるのではないかと思います。一人一人の力、決して強くはござい



ませんので集いの力というものを大事にしていかなければいけないなと思いました。

この頃多種多様な社会になりまして個々の主義主張、言論は自由などと言って大変活発化されてきておりますけれども、それも大事かもしれない、でも私はふと足をすね止めていただいて自分より弱い人、困っていらつしやる人のために何かしてあげようという小さな慈悲の実践、これが大事かなと思っております。

先日あるところで、仏教詩人の坂村真民さんの『何かしよう』という詩が目に残りました。弱い人は弱いなりに、老いた人は老いたなりに、何か人のためになる事があるはずだと、大変感激をいたしました。私も年を重ねてまいりまして、何かにつけ、もう年だからと怠けておりますので身に染みてその詩を感じていました。小さな慈悲の実践、言葉では簡単でございませうけれど実践実行に移しますという事は大変難しい事であり難しい事です。でも心を止めて皆様と一つになって努力をしてまいりましたら、何とか小さな慈悲の実践ができるかなと思います。

私も頑張りますので皆さまもどうぞよろしくお願い致します。

会長 東伏見具子

今年は私もいろんな大会に出席させていただきました。戦後80年という節目に当たりいろいろ催しが開催されました。6月には念法眞教さまよりどうかとお誘いを受け、仏婦から4名サイパン島慰霊の旅に参加させていただきました。中部太平洋慰霊祭、そこで法要を営み、それから約一万人の民間人の方が天皇陛下万歳と叫んで身を投げたというバンザイクリフ、そこで献花もさせていただきました。全く知らない世界の事で本当に身に余る思いでございました。いまだにいろんなところを掘り起こすと遺骨が出てくるという話も伺いました。そしてサイパン島のすぐ南にあるテナアン島、そこから広島、長崎です。原爆を落としたB29、その空港から飛び立ったということも初めて知りました。そして8月に比叡山の平和サミット、そこでは93歳の田中熙



已さまの講演がございました。核兵器も戦争もない人間社会をという題で田中熙已さまが長崎で被爆された自分の体験をもとにいかにか戦争をなくしていかなければならないかという事をお話くださいました。その中で、現在世界の中に

ある核兵器の数が1万2千241基。そのうちもうすぐにボタンを押すと発射できる状態の核兵器が3千912基あるそうです。全くの未知の世界でしたがそんなにもたくさんボタンをポッと押すだけで世界中が減ってしまう、本当に恐ろしい話でした。そして9月には全日本仏教会の大阪大会が開かれ、村山会長様から大阪の空襲の話をお伺いしました。そして村山会長は宗教者が今一団となって世界平和のために働かなくてはいけないと強く訴えられました。私たち仏婦は未来のため、未来の

ご来賓挨拶

公益財団法人全日本仏教会

事務総長 和田学英

全日本仏教婦人連盟様におかれましては、日頃より本会の活動に対し、多大なるご理解とご協力を賜りますこと、厚く御礼申し上げます。

貴連盟は発足以来、宗教・文化・言語など様々な違いを超えて、仏教精神の実現を目指し、国内外の福祉向上に貢献されております。具体的には、「写経運動」、被災者に寄り添う「あおぞら奨学金基金」「災害時の救援活動」などの活動を通じ、国際的な人道支援、青少年



の情操教育に対し積極的に活動されております。また、様々な研修会などを実施され、不断の研鑽を継続される姿勢には、深く感銘を受けるところでございます。

さらに、本多理事長をはじめ、遠賀副理事長、花岡常務理事、日比野委員の各位におかれましては、私ども全日本仏教会に係る役員・各種委員としてご尽力いただいておりますこと、この場をお借りして衷心より感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬご指導・ご鞭撻をお願い申しあげる次第でございます。

公益財団法人国際仏教興隆協会

理事長
中村康雅



今ほどはたくさんさんの寄進をいただきありがとうございます。国際仏教興隆協会印度山日本寺を運営させて頂いております。その日本の境内で無料の幼稚園菩提樹学園と光明施療院という医療関係の活動をさせて頂いております。

音楽面に貢献が大きく仏教音楽の大谷学園というコーラスのグループを創り、そして全仏婦の立ち上げにあたり大変力を尽くしました。

また、母大谷貴代子4代会長は法主の裏方として活躍され、陰ながらの陰徳を積まれました。

今後の全仏婦の活動がますます盛んになって全世界のお子様、貧しい子供たちに手を差し延べられて、更にこの仏教の光が全世界に広がっていくことを心より祈念させていただきますと思います。皆さまのますますのご健康とご多幸を祈念させていただきます。乾杯とさせていただきます。

北河原公敬
猊下

印度山日本寺の6代目竺主を承っております。日本寺には元々地元の人たちがスタッフとして一生懸命働いておりますが、それに加えて日本から宗派を超えた若い

す。仏婦様にはこの医療関係の活動にいつもご協力をいただいており、インド国内の法律が色々と変わって前のようにできておりませんけれども、ブツダガヤの地で大勢の人に健康にむけての色々な活動をさせて頂いているという処でございます。インドというところも随分発展し物価も高くなつてまいりました。しかしながら、ブツダガヤはまだまだインドでも最貧の遅れた地域でございます。そこで活動させていたたくわけですけれど日本人が活動するということにはなかなかいたしません。本堂が出来て50年になりますすがなかなか思うような活動が出来ず苦勞しております。

本日は、東大寺長老北河原公敬
日本寺竺主も一緒に参加させて
いただいております。竺主は毎年
12月の成道会には団体で日本寺の



お坊さんに駐在もしていただいて
おります。皆さんの方でも駐在を
してください。若い僧侶がおりまし
たらぜひ国際仏教興隆協会の方に
ご紹介いただきたいと思います

私も、立场上笠主になってからは年に一度は現地に行くことにしております。今年も12月4日からインドの方に行く予定をしています。



石附周行
猊下

曹洞宗大本山總持寺の眞首をとめております。大本山總持寺は、石川県能登半島に佇んでおりましたが、今から120程年前に火災があり鶴見に移転したわけでございます。

昨年のお正月に能登半島大地震
にあいまして、もともとあった祖
院が崩れてしまい、さてどうした

方に訪問してご回向していただいております。色んな人たちの力でごんばらせていただいておりますが、まだまだ足りないというのが現実でございます、どうぞ大勢の人たちに吹聴していただいて、ますます現地での活動が活発になります様お力添えをお願い致します。と思います。

第二部 挨拶

理事長
本多端子

只今ご紹介にあずかりました本多端子でございます。今年花岡理事長が退任され私が理事長に就任いたしました。このような大きな会をまとめるという事はとても大変なことと思いますが、花岡理事長は2期4年間やってくださいました。そして、この度私が引き受けましたのでまた皆様方にお願います。することとなりますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日は、片山さつき先生もお越し下さるとの予定でしたが、まさに



ものかと何回か足を運び、お寺だからいち早く復興にとおもっておりました。それは間違いで地域の方々と一緒に立ち上がって一緒に被害を整理して復興していくという事を教えました。今日のこの連盟とは宗派を超えた大きな力を重ねた72回ではなかうかと先程からつくづく思ひまして、仏教語で把手共行はしめきょうこうと言いまして手をとり合って歩んでいくという、このところが連盟とかボランティアとか大勢の方々、場合によつては宗派を超えてそれぞれの地域の中で活躍する。このところから出発しないと能登の復興はだめだと学びました。皆さまともども歩みたいと念じるところでございます。

謝辭

副会長

加用稔子

この一年は戦後80年という節目の年で慰霊法要またそれに関する

今日女性の総理大臣が誕生するのではないかとその雰囲気でございます。片山先生も国会におでましかとおもいますのでこちらにはお越し頂けないとの事で欠席となりました。

私どもは仏教系の婦人たちの集まりですが、宗派を問わず手を取り合い慈悲の心をもって福祉活動、文化などをこのような集まりに皆様に発信していけたらなど、色々な宗派、関係団体や会員のお力をお借りしなければやっていけないことと思いますので、これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

私の祖母がこの全仏婦の初代会長をしておりまして、私の母が4代目会長をしていました。大谷智子初代会長は、昭和天皇陛下の皇后である香淳皇后の妹君にあたり、東本願寺に興入れました。

淨土真宗東本願寺派法主

大谷光見
猊下

いろいろな大会、行事が行われたことと思います。皆さまも参加なさったのではなからうかと思ひます。戦争はしてはいけないことだ、人の命は大切なのだ、人だけではないすべての命が大切なのだいうことを本当にまた考える良い一年だったのではないかと思います。

私たちのこの会も72年間続いてまいりました。皆さまのご協力、ご支援、またご理解のお陰と思つております。仏教の精神、慈悲の心をもつて、すべての命、また世界平和、未来の子供たちに美しい地球を残すことをテーマに活動もまた一段と精進してまいりたいと思ひます。どうぞ宜しくよろしくご支援のほどお願い申し上げます。本日は誠にありがとうございます。





地域に寄り添い、 いのちを支えるお寺へ

—寺院での
介護者カフェと
「人生の意味支援」としての
スピリチュアルケア—



浄土宗総合研究所研究員
宮城県塩竈市
浄土宗雲上寺住職

東海林良昌

私たちはいま、世界でも例のない超高齢社会のただ中にいます。七十五歳以上の後期高齢者が急増し、在宅介護の担い手も高齢者であるケースが急速に増えています。「老老介護」「介護離職」「ヤングケアラー」など、かつては特殊と思われた言葉が、日常のものとなっています。介護者の約七割が精神的・肉体的に限界を感じているという調査もあり、社会が抱える不安は決して小さくありません。

一方で、寺院は古来より地域に寄り添い、人々の暮らしを支える「心の拠りどころ」でした。しかし現代では、寺院や僧侶に対し「社会活動のイメージがない」という声も少なくありません。人々が抱える孤独が深まる中で、寺院に求められる役割はむしろ大きくなっています。仏教が大切にしてきた慈悲と寄り添いの精神が、現代社会の苦しみはどう生かせるのか。そこで生まれた取り組みのひとつが「お寺での介護者カフェ」です。

お寺でひらく 「介護者カフェ」

介護者カフェとは、介護を担う方々が日々の悩みを語り合い、交流し、少し息をつくための場です。コーヒーとお菓子を片手に、介護者、介護経験者、介護職、地域包括支援センターの職員、関心のある地域住民などが集まり、立場を超えて思いを共有します。

お寺で行うカフェの大きな特徴は、そこに「僧侶と寺族がいる」という点です。語る側にとっては、



私はその語りを聴き続けるうちに、人が抱える悩みや苦しみの奥には、必ず「人生の意味」が横たわっていることに気づきました。そして、その意味を取り戻すとき、人は不思議と表情が和らぎます。心が軽くなる瞬間が訪れるのです。この気づきは、専門家から教わったものではなく、多くの介護者、ご家族、看取りの現場との出会いの中で私が感じ取ったものです。

だからこそ私は、スピリチュアルケアを「人生の意味支援」と表



苦しみや負の感情の奥底に、必ず横たわる「人生の意味」。

その意味を取り戻す時、人は再び、和らいだ表情で生き始めます。

現したいと思うようになりました。仏教の言葉で言えば、それは「慈悲」の実践に他なりません。

寺院だからこそ果たせる役割

人生の意味を語るには、安心して心を開ける場所が必要です。寺院には、祈り、供養、先祖への思い、あの世、いのちのつながりといった文化的・宗教的背景が自然と備わっています。そのため、参加者は無理なく「深い話」を語ることができます。



付けています。これは、お寺が安心して地域への貢献に関われる大きな支えです。

文化庁は近年、宗教法人が社会貢献として行う活動は、教義や教憲に基づき、地域のニーズに応じたものであれば「宗教活動」として認められる」と位置

文化庁は近年、宗教法人が社会貢献として行う活動は、教義や教憲に基づき、地域のニーズに応じたものであれば「宗教活動」として認められる」と位置

自分の弱さや不安、怒りや後悔を安心して話せる場所であり、聴く側にとっても、評価せず、否定せず、ただ受け止める姿勢を大切にすることが、何よりも重要です。

この取り組みは宮城県での開始ながら全国へ広がりました。現在では12都道府県32カ寺で開催され、毎年立ち上げ講座が行われるなど、着実に広がりを見せています。

スピリチュアルケアは、私が現場で気づいた「人生の意味支援」

介護者カフェを続けてきた中で、私は次第にケアとは単に知識や制度の説明をしたり、治すということではなく、その人の人生の意味に寄り添うことなのだと実感するようになりました。

介護は、病気、老い、死別、そして死別後の悲嘆といった人生の大きな出来事と向き合うことです。参加者の語りには、

- どうして自分がこんな役目を背負うのか
- これまでの人生は何だったのか
- 家族にどう向き合えばよいのか
- これから自分はどう生きるべきか

といった、深い問いが自然と含まれています。



おわりに — 人生の物語に 寄り添う仏教

介護者カフェで出会う方々は、それぞれが大切な人生の物語を背負いながら生きています。疲れ切った心で語られる言葉の中に、家族への深い愛情、後悔、祈り、願いが溢れています。その語りに寄り添い、評価せず、ただそこにある苦しみを受け止めること——それこそが、仏教が古くから大切にしてきた慈悲の実践ではないでしょうか。

寺院は、人々が自分自身の人生の意味に改めて向き合い、再び歩き出す力を取り戻すための大切な「場」となり得ます。超高齢社会を迎えたいま、仏教の教えと僧侶の寄り添いが、地域に新たな支えをもたらしていくことを願っています。

お写経のすすめ

Shakyo no Susume

お写経は、仏教の經典の文字を一字一字、丁寧に書き写すことで、心身を清める修行として、大きな功德があります。經典は、お釈迦様のありがたい教えをまとめたもので、お写経を繰り返すことでその意味を感じ取りながら仏教の教えを学ぶことができます。

お写経とは本来、徳を積むための行為であり、見返りを求めて行うものではありませんが、お写経を始めるきっかけとして、まずはどんな効果があるか知りましょう。



現代の医学的見地からみても、写経や読経が自己の治癒力を高める効果をもたらすということが分かっています。一つのことに意識を集中させることによって、神経系統、特に大脳の働きが整理されて、からだ全体がバランスよく保たれます。そして各器官が活発化してくるのです。

最近では大学などの研究で、写経は字を書くという指先を使う作業のため、脳を活性化することに効果があり、認知症の予防を目的に高齢者用のリハビリプログラムとして有効であることが証明されました。多感な青少年、また高齢者のためまで幅広く効用があることが、いま科学的にも注目されています。

お写経の効果

1. 指先を使うことで、**脳を活性化**させることができます
2. 姿勢がよくなり、**心と体**が落ち着いてきます
3. **自然の治癒力**が向上します
4. **集中力と忍耐力**がついてきます
5. **字が上手**になります
6. **イライラを解消**し、疲労回復がはかれます
7. 心が清浄になり、**安心の境地**が得られます

般若心経

舎利礼文

十句観音経

写経のすすめ

写経用紙は上記の三種類を用意しております。今回全員に写経用紙（般若心経）をお送りいたしますので、**3月末日**までに納経をお願いいたします。

- お写経はインド・ブッダガヤの「インド山日本寺」の宝篋印塔にお納めします。
- 奉納金は一卷につき般若心経1000円、舎利礼文・十句観音経各500円をお願いいたします。
- お納めいただいた奉納金は、日本寺境内にあります光明施療院において、ガヤ地域の子供たちの健康の維持、回復、促進などを目的とした無料の医療福祉活動の運営に活用させていただきます。

問合せ先

(公社)
全日本仏教婦人連盟
☎ 151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷
4-5-10-205
【TEL】 03-5772-0677
【FAX】 03-6434-0184
【URL】 <http://www.jbwf.jp>
【MAIL】 info@jbwf.jp

CHECK!



Letters from scholarship students

あおぞら奨学基金



皆様のあたたかいご支援が

こんなにも役立っています！



1年生
男子

私はこの令和七年四月の春にこの学校に入学しました。入学できるか心配しましたが合格して入学できてとてもうれしかったです。そして毎日楽しく学校生活を送っています。四月から今日まで三ヶ月以上が過ぎ、まだまだ分からないことだらけですが、先生方や友達の力を借りて日々学校生活にも慣れて

2025年度から支援をする高校生の前向きなお便りを紹介いたします。

東日本大震災から早15年が過ぎました。当連盟では年間6名の高校生を支援しております。これまでに31名の生徒が卒業し、それぞれに成長していることと思います。

令和6（2024）年度より、能登半島地震で被災し支援を必要とされている生徒も対象としています。

子どもたちが、未来に向けた一歩を踏み出せますよう一人の高校生1年12万円（1か月1万円）の学習支援です。皆様の協力をお願いいたします。

きています。六月には二週間の校内実習というものがありません。初めての作業だったもので、最初は少し緊張したり戸惑ったりしました。でも、先生方の話をよく聞き、丁寧に仕事に取り組みうと決めて、毎日がんばりました。私にとって、とても良い経験になりました。休日は学校の用意や、家の手伝いなどであつという間に時間が過ぎて

しまいます。これからの学校生活でも時間を大切にして、先生方やクラスメイト、先輩方とたくさん話をして協力して、いろんな行事に取り組みたいと思います。この学校での三年間が充実した毎日を送らせるよう頑張ります。奨学金は学校で使う文房具などを買ったりして有意義に使わせてもらいます。ありがとうございました。

2025年10月20日
サポーター様
アレクサンドルコロヤンキ

拝啓
朝夕のすずしさを感ずる季節となりましたが、サポーターの皆様はいかがお過ごしでしょうか。私ウクライナから避難、日本に来てから3年が経ちました。その間、皆様の温かいご支援のおかげで、安心して学校生活を送り、勉強や部活動に一生懸命に取り組むことができました。

そしてこのたび、私はウクライナへ帰国することができました。日本で過ごした時間は、私にとってかけがえのない経験となりました。勉強を通して学んだことや、日本の皆さんの思いやりの心を、これからの人生でも大切にしていきたいと思っています。

改めて、これまで支えてくださったあおぞら奨学基金の皆様、心から感謝申し上げます。日本での思い出を大切に、これからもがんばります。

本当にありがとうございました。 敬具



ウクライナから避難され日本航空高校山梨校に通われていた男子生徒が諸事情により帰国され、これまでの支援に対して御礼のお手紙が届きました。原文のまま掲載させていただきます。

新年 賀 謹

令和八年 丙午

<p>公益財団法人 全日本仏教青年会</p> <p>理事長 来馬司龍</p> <p>【事務局】〒二五二一ー一〇七 大法寺内 神奈川県綾瀬市深谷中六ー三二一 ☎〇四六七ー七八一〇一〇三</p>	<p>公益財団法人 仏教伝道協会</p> <p>会長 木村清孝 理事 石井清純 理事長 沼田恵明 同 横田南嶺 理事 松丸壽雄 同 阿純章 同 生田忠士 監事 松村智司 同 入澤崇 同 西本照眞</p> <p>〒一〇八一〇〇一四 東京都港区芝四ー三二一四 ☎〇三一二四五一五八五一 URL:https://www.bdc.or.jp</p>	<p>公益社団法人 日本仏教保育協会</p> <p>名誉会長 小澤憲珠 理事長 高山久照</p> <p>〒一〇五一〇〇一ー 東京都港区芝公園四ー七ー四 ☎〇三一二四二二ー七四七五</p>
<p>子ども支援ネットワーク</p> <p>公益財団法人 全国青少年教化協議会</p> <p>〒一〇四一〇〇四五 東京都中央区築地三ー七ー五 築地Aビル五F ☎〇三一二五四一ー六七二五</p>	<p>公益社団法人 シャントイ国際ボランティア会</p> <p>会長 若林恭英</p> <p>〒一六〇一〇〇一五 東京都新宿区大京町三二 慈母会館二・三階 ☎〇三一二五三六〇一ー二二三三</p>	<p>一般社団法人 仏教情報センター</p> <p>理事長 平井良昌</p> <p>〒一三三ー〇〇三三 東京都文京区本郷一ー四一六ー二〇二 ☎〇三一二三八一三六五七七 FAX 〇三一二三八一三六七九四</p>
<p>世界連邦日本宗教委員会</p> <p>会長 田中恆清</p> <p>〒六一四一八五八八 京都府八幡市八幡高坊三〇 石清水八幡宮内 ☎FAX 〇七五九八一ー三〇〇一</p>	<p>一般社団法人 日本仏教鑽仰会</p> <p>代表理事 中山斉栄</p> <p>〒一七四一〇〇七一 東京都板橋区舟渡四一ー五一一 ☎FAX 〇三一二三九六七ー三二八八</p>	<p>浄土宗総本山 知恩院門跡</p> <p>浄土門主 伊藤唯眞</p> <p>〒六〇五一八六八六 京都市東山区林下町四〇〇 ☎〇七五一一三二一ー二一一一</p>
	<p>三十三間堂本坊 妙法院門跡</p> <p>門主 杉谷義純</p> <p>〒六〇五一〇九三二 京都市東山区東山七条上ル ☎〇七五一一五六一ー〇四六七 FAX 〇七五一一五六一ー六六九八</p>	

〈順不同〉

新年 賀 謹

令和八年 丙午

<p>公益財団法人 全日本仏教会 WLB(世界仏教徒連盟)日本カンパニー</p> <p>会長 伊藤唯眞 理事長 日谷照應</p> <p>〒一〇五〇〇二 東京都港区芝公園四ー七ー四 ☎〇三一二四二七ー九二七五 URL:http://www.jbfc.ne.jp E-mail:info@jbfc.ne.jp</p>	<p>曹洞宗宗務庁</p> <p>管長 南澤道人</p> <p>宗務総長 服部秀世 教化部長 藏山大顕 参議 藤井浩宗 伝道部長 高橋英寛 参議 渡邊義弘 総務部長 圓通良樹 教学部長 深川典雄 出版部長 伊藤弘隆 人事部長 喜美候補謙史 財政部長 服部直哉</p> <p>〒一〇五八四四 東京都港区芝一五一二 ☎〇三一二四五四一五四一一 URL:https://www.sotozen-net.or.jp</p>	<p>浄土宗</p> <p>宗務総長 川中光教</p> <p>〒六〇五一〇〇六二 京都市東山区林下町四〇〇一八 ☎〇七五一一五二五一一二〇〇代</p>	<p>日蓮宗宗務院</p> <p>宗務総長 光岡潮慶</p> <p>〒一四六一八五四四 東京都大田区池上二ー三二一五 ☎〇三一二七五一一七一一八 FAX 〇三一二七五一一七一八六 URL:https://www.richiren.or.jp</p>
<p>天台宗</p> <p>宗務総長 細野舜海</p> <p>〒五二〇一〇一三 滋賀県大津市坂本四一六一一 ☎〇七七一五七九一〇〇二二</p>	<p>真言宗智山派宗務庁</p> <p>宗務総長 三神栄法</p> <p>〒六〇五一〇九五ー 京都市東山区東大路通り七条下ル 東瓦町九六四 ☎〇七五一一五四一ー五三六一</p>	<p>真言宗豊山派宗務所</p> <p>宗務総長 川田興聖</p> <p>〒二二一〇〇一一 東京都文京区大塚五一四〇一八 ☎〇三一二九四五一〇六三九代 FAX 〇三一二九四五一〇七〇二</p>	<p>東京都仏教連合会</p> <p>会長 小澤憲珠 理事長 三吉廣明</p> <p>〒一一一〇〇三六 涼源寺内 東京都台東区松が谷二ー一九一七 ☎〇三一二八四四一九五九七</p>
<p>一般財団法人 京都仏教会</p> <p>理事長 有馬頼底 事務局長 長沢香静</p> <p>〒六〇二一〇八九八 京都市上京区今出川通烏丸東入 相國寺門前町六三六一一 ☎〇七五一一三二一六九七五代</p>	<p>愛知県仏教会</p> <p>会長 軽部浩史</p> <p>【事務局】〒四九七ー〇三六 八幡山松秀寺内 愛知県海部郡蟹江町須成西七一六六一 ☎〇五六七ー九五一三〇一〇 FAX 〇五六七ー九五一八七一七</p>	<p>一般財団法人 埼玉県佛教会</p> <p>会長 加藤玄静</p> <p>〒三三〇〇〇六三 さいたま市浦和区高砂四一ー三一八 ☎〇四八一八六一ー二二三八</p>	<p>大阪府佛教会</p> <p>会長 村山廣甫 事務局長 二上寛弘</p> <p>【事務局】〒五五二一〇〇二二 大阪府港区築港二ー一三二三 釈迦院内 ☎〇六一六五七一ー五七一〇</p>

〈順不同〉

令和八年 丙午

〈順不同〉

令和八年 丙午

〈順不同〉

令和八年 丙午

〈順不同〉

令和八年 丙午

〈順不同〉

新年賀 謹

丙午 令和八年

公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 会長 東伏見具子 〒六〇五―〇〇三五 京都市東山区粟田口三条坊町 六九一―一 青蓮院門跡 ☎〇七五―五六一―一三四五	公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 副会長 加用 稔子 〒七三〇―〇〇四一 広島県広島市中区小町二―一 ☎〇八二―二四一―一七四七一	公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 副会長 吉田 真理 〒七三九―〇五九一 広島県廿日市市宮島町二―〇 ☎〇八二―九一―四四一―〇一一一	公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 顧問 林 恵智子 〒三五九―一―一六 埼玉県所沢市東町二四―一 ☎〇九〇―一五五―〇〇一―三四九四
公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 理事 松井百合子 〒二七二―〇一四四 曹洞宗新井寺 千葉県市川市新井一―九一―一 ☎〇四七―一三五七―八三一九 FAX 〇四七―一三五七―八三九九	真言宗智山派 寶光院 公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 理事 大橋百合子 〒三二九―〇五二四 栃木県河内郡上三川町多功一八八八 ☎〇二八五―五三二―八八〇一	天台宗寺院庭婦人連合会顧問 公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 常務理事 米田 陽子 〒六八二―〇一三二 鳥取県東伯郡三朝町三徳一〇一〇 ☎〇八五八―四三二―二六六六	公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 常務理事 桶屋 良法 〒五三八―〇〇五四 念法眞教 総本山金剛寺 大阪市鶴見区緑三丁目四番二二号 ☎〇六一―六九一―一―二一〇一 FAX 〇六一―六九一―一―七六六七
公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 理事 湯浅 正江 〒二八六―〇〇二二 千葉県成田市土屋八 ☎〇四七六―二二一―一三四一	公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 監事 公認会計士 木村 匡成 〒一五一―〇〇五―一 東京都渋谷区千駄ヶ谷四―五―一〇 ☎〇三―一五七―七二一―〇六七七	公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 理事 村主 みや子 〒六六五―〇八六一 中山寺総持院 兵庫県宝塚市中山寺二―一―一 ☎〇七九七―八一―一〇〇六五	公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 会長 山田 裕子 〒四二六―〇二二―一 静岡県藤枝市西方四〇七 ☎〇五四―六三八―一〇四〇五
公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 会長 大塚 哲子 〒三五〇―〇二二二 埼玉県坂戸市石井二二三二 ☎〇四九―二八一―〇〇七三	智山寺院庭婦人連合会 会長 大塚 哲子 〒一五九―〇〇五―一 東京都渋谷区千駄ヶ谷四―五―一〇 ☎〇三―一五七―七二一―〇六七七	公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 維持会員 日比野 郁皓 〒一一一―〇〇五―一 東京都台東区蔵前三―二二―一九 ☎〇二―一三八五―一―四七二九 FAX 〇二―一三八五―一―九七七〇	静岡県仏教婦人会 会長 山田 裕子 〒四二六―〇二二―一 静岡県藤枝市西方四〇七 ☎〇五四―六三八―一〇四〇五
公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 取締役 営業部長 永田 政夫 〒一六九―〇〇七五 東京都新宿区高田馬場 一―三二―一八―九二五 ☎〇九〇―一―三二五―一―四〇九一	株式会社大陸旅遊 部長 押上 剛人 〒一〇〇―六七五―一 東京都千代田区丸の内一―九一―一 グランドウキョウノースター ☎〇三―一五五五―一―〇三三〇 mailto:mai@keihooshigami@daiwa.co.jp	公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 維持会員 日比野 郁皓 〒一一一―〇〇五―一 東京都台東区蔵前三―二二―一九 ☎〇二―一三八五―一―四七二九 FAX 〇二―一三八五―一―九七七〇	公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 常務理事 海老塚 るり子 〒七八一―八二二五 高知県高知市五台山三五七七 ☎〇八八―八八二―一三〇八五

〈順不同〉

新年賀 謹

丙午 令和八年

公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 会長 東伏見具子 〒六〇五―〇〇三五 京都市東山区粟田口三条坊町 六九一―一 青蓮院門跡 ☎〇七五―五六一―一三四五	公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 副会長 加用 稔子 〒七三〇―〇〇四一 広島県広島市中区小町二―一 ☎〇八二―二四一―一七四七一	公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 副会長 吉田 真理 〒七三九―〇五九一 広島県廿日市市宮島町二―〇 ☎〇八二―九一―四四一―〇一一一	公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 顧問 林 恵智子 〒三五九―一―一六 埼玉県所沢市東町二四―一 ☎〇九〇―一五五―〇〇一―三四九四
公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 参与 鈴木 トヨ子 〒一六八―〇〇七四 東京都杉並区上高井戸一―二七―一五 ☎〇三―一三三―〇二一―五八六七	公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 参与 末 廣 久美 〒二一〇―〇〇〇一 東京都台東区谷中一―六―二七 ☎〇三―一三八二―一―四五二九	公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 理事長 本多 端子 〒二一〇―〇〇一五 東京都台東区東上野六―一―八一七 ☎〇三―一三八四―四―四三八九	真言宗智山派 竹林寺 公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 常務理事 海老塚 るり子 〒七八一―八二二五 高知県高知市五台山三五七七 ☎〇八八―八八二―一三〇八五
公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 副理事長 遠賀 令子 〒一四〇―〇〇一五 東京都品川区西大井五―二―一二五 ☎〇三―一三七七―一―四八一六	(学法) 認定こども園 梅ヶ原幼稚園園長補佐 公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 常務理事 花岡 眞理子 〒三三三―〇八〇七 栃木県小山市城東五―一―一二〇 ☎〇二八五―一―二五一―三三三三	御瀧不動尊 金蔵寺 公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 常務理事 梨本 三千代 〒二七三―〇八五三 千葉県船橋市金杉六―二五―一 ☎〇四七―四四八―一―二八三三	公益社団法人 全日本仏教婦人連盟 常務理事 海老塚 るり子 〒七八一―八二二五 高知県高知市五台山三五七七 ☎〇八八―八八二―一三〇八五

〈順不同〉

新年名刺交換協賛のお願いを申し上げますところ、多くの方々よりお申込み頂きますして、厚く御礼申し上げます。
茲に掲載誌をお送り申し上げます、御礼にかえさせて頂きたいと存じます。

10月 October

1日 大会打ち合わせ（東京プリンスホテル）

7日 第3回運営委員会・第135回文化講座（谷中・天王寺）

8日 真言宗智山派管長吉田宏哲猊下晋山祝賀会（ホテルグランヴィア京都）

10日 「沙羅の樹」22号発行

21日 第72回全日本仏教婦人連盟大会（東京プリンスホテル）

28日 （公財）仏教伝道協会「設立60周年感謝の会」（マナダリン オリエンタル 東京）

29日 （公財）全日本仏教会第9回花まつりポスター及び絵はがき新デザイン選定審査会（明照会館）

仏婦NEWS抄

私たちの
日々のあゆみ
2022年10月～12月

11月 November

5日 第1回編集会議（樞寺）

6日 （公財）全日本仏教会総務財政審議会（明照会館）

18日 全日本仏教青年会来馬司龍理事長就任祝賀会（池袋・ホテルメトロポリタン）

20日 （公財）全日本仏教会第49回理事会（京都・間法会館・zoomミーティング）

21日 第4回運営委員会（東京會館）

30日 第60回戦争犠牲者慰霊並びに平和祈願式典（国立・千鳥ヶ淵戦没者墓苑）

12月 December

3日 修正会打ち合わせ（Q.E.D.CLUB）

12日 第37回成道会の集い（有楽町朝日ホール）

26日 「全佛婦」発送・仕事納め

全日仏婦事業に多くの方々よりご協力いただきありがとうございます。それぞれの事業に活用させていただきますので、どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。

（順不同・敬称略12月15日現在）

▼新会員紹介

【賛助会員】

慧林寺（浄土真宗東本願寺派）

【正会員】

阿真知子（浄土真宗東本願寺派）

吉村柳子 柳原敏子 栗原裕子

塩入敬子（天台宗）

▼賛助金にご協力の方

慧林寺

▼ご芳志をいただきました方々

天王寺 高崎悦子

▼社会福祉基金にご協力の方々

梨本三千代 磯山福正

大会に出席された方々

▼写経運動にご協力の方々

念法真教 湯浅正江 高崎悦子

村上和之 高橋節子 海老名初江

事務局だより



information

新年修正会

日にち：1月21日（水）

会 場：Q.E.D.CLUB
東京都目黒区中目黒
1-1-29
TEL:03-3711-0006

第136回文化講座

日にち：2月10日（火）14:00～

会 場：天王寺
東京都台東区谷中 7-14-8
上善堂にて写経会をしますので
皆さまご参加ください。

訂正

沙羅の樹22号（10月10日発行）にて新賛助会員勝楽寺浄土真宗東本願寺派とご紹介いたしました。が真宗大谷派の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

第37回 成道会の集い



12月12日（金）13時～有楽町朝日ホールにて東京都仏教連合会主催、全日本仏教婦人連盟後援による成道会が開催されました。

第一部の東京都仏教連合会小澤憲珠会長法要の下に当連盟六名の有志で献灯、献花、献香のお役を務めさせていただきました。

第二部は、道成寺小野俊成住職が「仏教文化の精華」と題し、道成寺縁起の絵解きをそして古典芸能解説者の葛西誠司氏の解説もあり、能や歌舞伎の世界で名高い道成寺の話の奥深い世界を垣間見る興味深い時間を過ごしました。

芳澤流家元芳澤壱ろはさんによる舞が観客を魅了いたしました。

今年は350名の参加者があり大変盛況な会となり、改めてお釈迦様がお悟りを開かれた日に感謝の思いを捧げました。

納経報告



2025年12月6日、印度山日本寺において厳修されました成道会に際し、（公社）全日本仏教婦人連盟様よりお預かりいたしましたお写経を奉戴いたしました。

当日は、日本寺竺主北河原公敬東大寺長老が導師をお勤めになり、日本寺より3名の僧侶が出仕のもと、厳粛に成道会が執り行われました。

その後、2025年11月末から赴任しました駐在僧杉原遥平（臨済宗建長寺派）が世界遺産大菩提寺に奉戴。お釈迦さまがお悟りになられた場所である聖菩提樹の下で読経し、更に日本寺での納経法要後、宝篋印塔にお納め致しました。

お写経を通して貴連盟から賜りましたご支援に一同心より御礼申し上げます。ご浄財は、菩提樹学園の園児たちの健康管理そして地域の公衆衛生向上活動を行う光明施療院の運営へ役立てさせていただきます。（廣石）

